

《はじめに》

このたびは、本製品をお買い上げ頂きまして誠にありがとうございました。

この取扱説明書は本製品を常に最良の状態に保ち、安全な作業をしていただくために、正しい取扱い方法と簡単なお手入れ方法について説明してあります。

ご使用前に必ずこの取扱説明書を良くお読みいただき、安全な運転作業と正しい取扱い方法を十分理解し、安全で能率的な作業にお役立て下さい。

又、お読みになった後は必ず大切に保管し、本製品を末永くご使用頂けますようにご活用下さい。

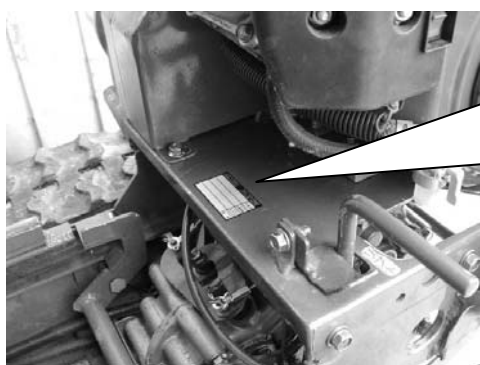
尚、品質・性能向上及びその他の事情による部品等の変更で、お手元の製品と本書の内容が一部一致しない場合がありますので、あらかじめご了承下さい。

《本製品の規制について》

本製品は、作業圃場内での農業生産物、あるいは一般生産資材等の運搬を目的とした歩行型の運搬車として設計・開発しておりますのでそれ以外の用途には使用しないで下さい。また、道路及び一般交通に供するような場所（農道、林道、公共広場等）では走行できません。車両ナンバーを取得することもできません。

《保証とサービスについて》

本製品の保証期間は購入後1ケ年間、又は50使用時間(業務用については6ケ月間、もしくは50使用時間)の内どちらか早い時点で到達した方となっております。ご使用中の事故・ご不審な点及びサービスに関するご用命は、お買い上げ頂いた販売店又は、当社営業所までお気軽にご相談下さい。その際、『商品型式と製造番号・搭載エンジンの型式名』を併せてご連絡下さい。






種類 Description	農用運搬機(歩行型)
型式名 Model	LS310LD
区分 Type	
製造番号 Serial No.	11ZF000000
発売元	株式会社 オーレック
OREC	株式会社 オーレック MADE IN JAPAN OREC CO., LTD. FABRIQUE AU JAPON

「取扱説明書」に記載してある適正な点検・整備を怠った場合、及び仕様をこえた使用・改造等によつての故障・事故については、保証の対象外となります。

◎この製品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後9年と致します。但し、供給年限内であっても、特殊部品につきましては納期等について、ご相談させていただく場合があります。又、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

《定義とシンボルマークについて》

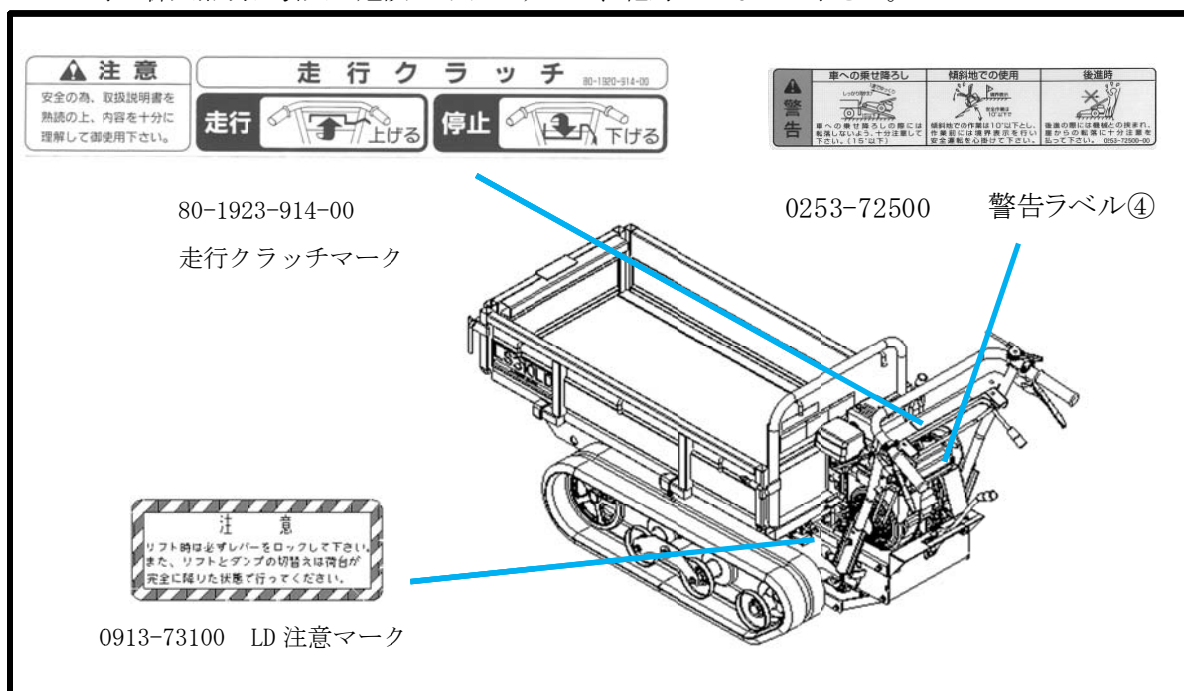
本書では、危険度の高さ（または事故の大きさ）に従って、次のような定義とシンボルマークが使用されています。以下のシンボルマークがもつ意味を十分に理解し、その内容に従って下さい。

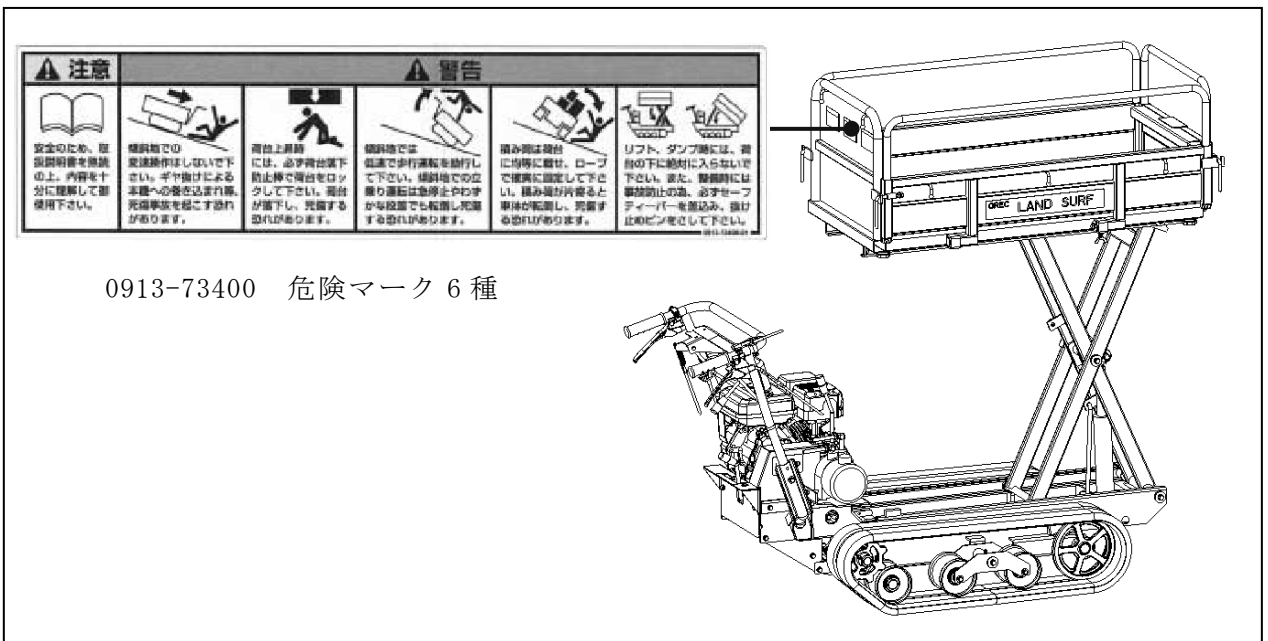
シンボルマーク	定 義
 危険	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。
 警告	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
 注意	その警告文に従わなかった場合、ケガを負う恐れがあるものを示します。また、遵守又は矯正しないと、製品自体に損傷を与えるものも示します。
参 考 ;	操作、保守において知っておくと得な製品の性能、誤りやすいミスに関する事項を示します。

《安全に作業をするために》

(1) 警告表示マーク

- ・以下の危険表示マークは本項目内における重要危険事項の中からとくに重要なものとして厳選されており、本体に貼付されています。ご使用前に必ずお読みいただき、十分理解して必ず守って下さい。
- …警告表示マークが見えにくくなった場合には、貼り変えるなどして常にはっきり識別できるようにしておいて下さい。(26頁…消耗品明細参照)
- …本機はガソリンを燃料としており、作業中はもちろん機械のそばでのくわえたばこや焚き火等の裸火照明は引火の危険がありますので、絶対にしないで下さい。





(2) 作業前の注意

- ・運転の前に10頁に従って始業点検を必ず励行し、異常箇所は直ちに補修して下さい。
- ・本機の運転に際しては、使用上の注意事項を十分理解し、安全運転を徹底して下さい。
- ・所有者以外の人には使用しないで下さい。
- ・過労、病気、薬物の影響、その他の影響により正常な運転操作ができないときには作業しないで下さい。又、酒気を帯びた人、妊婦、本書及び各種マークの内容が理解できない人や子供にも作業させないで下さい。
- ・機械の回転部に巻き込まれたりしないよう、作業衣は長袖の上着に裾を絞った長ズボンを着用し、滑り止めのついた長靴や安全靴、ヘルメットを必ず着用し軽装やサンダル履き等での作業はしないで下さい。

▲安全のための保護カバー類はもとより、標準に装備されている部品を外しての運転は非常に危険です。事故防止のため、これらのカバー類、部品は必ず装着した状態で使用して下さい。

点検等で保護カバーを取り外したときには、必ず元通りに取り付けて作業を開始して下さい。

- ・必ず、駆動スプロケット、転輪、テンションローラが確実に取り付けられているか点検し、緩んでいるときはしっかり締めて下さい。
- ・荷台に人を乗せないで下さい。同乗者を伴う運転は、重心の移動等が起こり大変危険です。
- ・軟弱な圃場内、又は走行中のリフトやダンプ操作は絶対にしないで下さい。重心の移動等が起こり本機の転倒等、大変危険です。
- ・荷台をリフトやダンプしたまま作業をしなければならない場合には必ずエンジンを停止し、セーフティーバー（5頁参照）を使って荷台を確実に固定して下さい。
- ・障害物を事前に確認してから作業を開始して下さい。また、急傾斜及び軟弱な路肩、地面の凸凹等のある区域での作業は危険なため、作業を行わないで下さい。

▲排気ガスによる中毒防止のため、屋内では使用しないで下さい。

- ・転落防止のため、川や崖に向かっての作業はしないで下さい。
- ・走行クラッチが「停止(下側)」位置の時、Vベルトが確実に止まっているか点検し、もし少しでも動いている場合には、速やかにエンジンを停止し、ベルト・ベルト押え・ワイヤを点検調整して下さい。

▲ 15°～20°の傾斜地では、積載量を150Kg以下にして走行して下さい。20°を越える急傾斜地では、本機を使用しないで下さい。また、横傾斜で使用すると転倒する危険がありますので、本機を使用しないで下さい。

▲ 斜面で走行クラッチを切ったり、変速レバーを操作すると暴走する危険があります。斜面では、これらの操作をしないで下さい。

- ・平坦部と傾斜部との境目（路肩）を走行する場合は、車両の重みで路肩が崩れる危険があります。特に軟弱な路肩付近では速度を落とし、慎重に走行して下さい。
- ・見通しの悪い場所や狭い橋、傾斜や起伏の激しい道では誘導者の指示に従い、安全確認を十分に行って走行して下さい。

▲ 暗い時、視界が悪いときの作業は危険です。周囲の状況が十分に把握できないときには使用しないで下さい。

（３） 燃料給油時の注意

- ・給油は必ず燃料タンクの油面上限マーク以下にし、万一多く入れ過ぎたときは、マーク以下になるまで抜き取り、又周辺にこぼれた燃料は必ずふき取って下さい。

▲ 燃料、油脂の取り扱い時（給油等）は、絶対に火気（タバコの火等）を近づけないで下さい。

▲ 火傷や火災の危険がありますので給油はマフラの温度が十分下がってから行って下さい。

（４） 始動時の注意

- ・エンジンの回りや排気ガス方向には、燃えやすいものを近付けないで下さい。
- ・走行クラッチは「停止（下側）」位置で始動し、各レバーの位置と周囲の安全を確認してからゆっくりと発進して下さい。

（５） 積み降ろし時の注意

〈19 頁参照〉

- ・平坦で安全な場所を選び、トラックが動き出さないようにエンジンを止め、サイドブレーキを引いて確実に駐車して下さい。
- ・丈夫なブリッジを確実に掛け、ゆるい勾配でエンジン回転を下げ、積み込みは前進「①」位置で、降ろす場合には後進「②」位置でゆっくり行いその他の位置には絶対に入れないで下さい。

▲ トラックへの積み降ろしは必ず荷台は空の状態で行って下さい。また荷台をリフトやダンプしたまま積み降ろしをしないで下さい。転倒の恐れがあります。

（６） 走行時の注意

- ・安全のため、余裕を持った運転を心掛け、急発進・急停止・急旋回はしないで下さい。
- ・軟弱な地盤や濡れた路面での急旋回及び急停車は、スリップや転倒を招き危険です。
- ・走行時は、路面の勾配、路面の状態及び積載量に応じた安全速度で走行して下さい。

▲ 排気マフラ付近は熱いため、火傷をしないよう、手等を近付けないで下さい。

- ・後進時は人や動物等、障害物がない事を確認して機械との間に挟まれたり、崖からの転落等がないよう足場に注意して下さい。

- ・ベルトスリップによる異常な音、匂い、発熱は火災の原因です。その様な時はすぐにエンジンを停止して点検・修理して下さい。

▲ 冷却風の吸込口、シリンダ付近の草詰まり泥詰まりはエンジンの焼付きや火災の原因です。外側のみならず、内側もこまめに清掃して下さい。又、エアクリーナ内部の清掃も同時に行ってください。

- ▲ 傾斜地ではまっすぐ昇り降りして下さい。特に積載時に斜面を横断すると転倒の恐れがあります。やむを得ない場合には、注意しながら確実に操作して下さい。
- ・ 下り坂の前では、一旦停止した後、変速レバーを低速位置に入れ、エンジンプレーキを必ず使用して走行して下さい。発進・停止はゆっくりと行って下さい。

(7) 積載時の注意

- ▲ 本機の仕様で規定されている最大積載能力を超える積載はしないで下さい。
- ・ 木橋等を渡る時は、本機の機械重量と積載量及び作業者の体重の総重量が、木橋等の制限重量を越えないことを確認し、一定速度で慎重に通過して下さい。
- ▲ 積み荷は偏過重にならないよう、荷台に均一に乗せ、ロープで固定するように心掛けて下さい。また、積み荷の高さに注意し、視界を確保するよう注意して下さい。

(8) 駐車時の注意

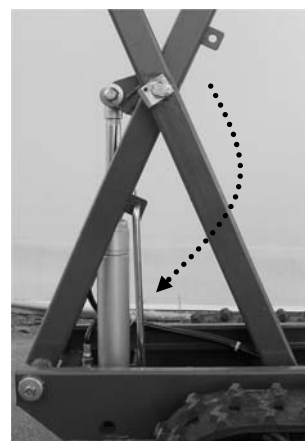
- ▲ 駐停車の際は足場のよい平坦地に本機を止め、危険な場所での駐停車はしないで下さい。
- ・ 坂道での駐車は極力避けて下さい。やむを得ず坂道で駐車する場合には、駐車ブレーキを確実にかけた後輪止めをし、本機より離れる時は、必ずエンジンを止めて下さい。
 - ・ 安全のため、燃料コックは必ず「閉(OFF)」位置にしておいて下さい。
- ▲ 草やワラ等の可燃物の上に本機を止めないで下さい。排気管の熱や排気ガス等により引火する恐れがあります。

(9) 点検・整備時の注意

- ▲ 機械の点検・調整・整備をする時は、必ずエンジンを停止して下さい。やむを得ず室内でエンジンを運転させる時は、排気ガスによる中毒防止のため、換気をよくしてから作業を行って下さい。
- ・ 取り外した回転部のカバー類は、必ず元の位置に正しく取り付けて下さい。
 - ・ 点検・整備を行う場合、又シートをかける場合は火傷や火災を防ぐため、マフラーやエンジン本体の冷却状態を十分確認したうえで行って下さい。
 - ・ 走行（駐車）ブレーキのあるものについては安全のため、使用時間が100時間に到達しない時点で交換して下さい。
 - ・ 荷台をリフト及びダンプした状態で整備を行う場合はセーフティーバーを所定の位置に入れ、Rピンをさしてから行って下さい。



通常時



点検・整備時

《機械を他人に貸すときは…》

所有者以外の人には作業をさせないのが原則ですが、やむを得ず機械を他人に貸すときには、取り扱い方法を説明し、「取扱説明書」をよく読んでもらい、取り扱い方法や安全のポイントを十分理解してから作業をするように指導して下さい。

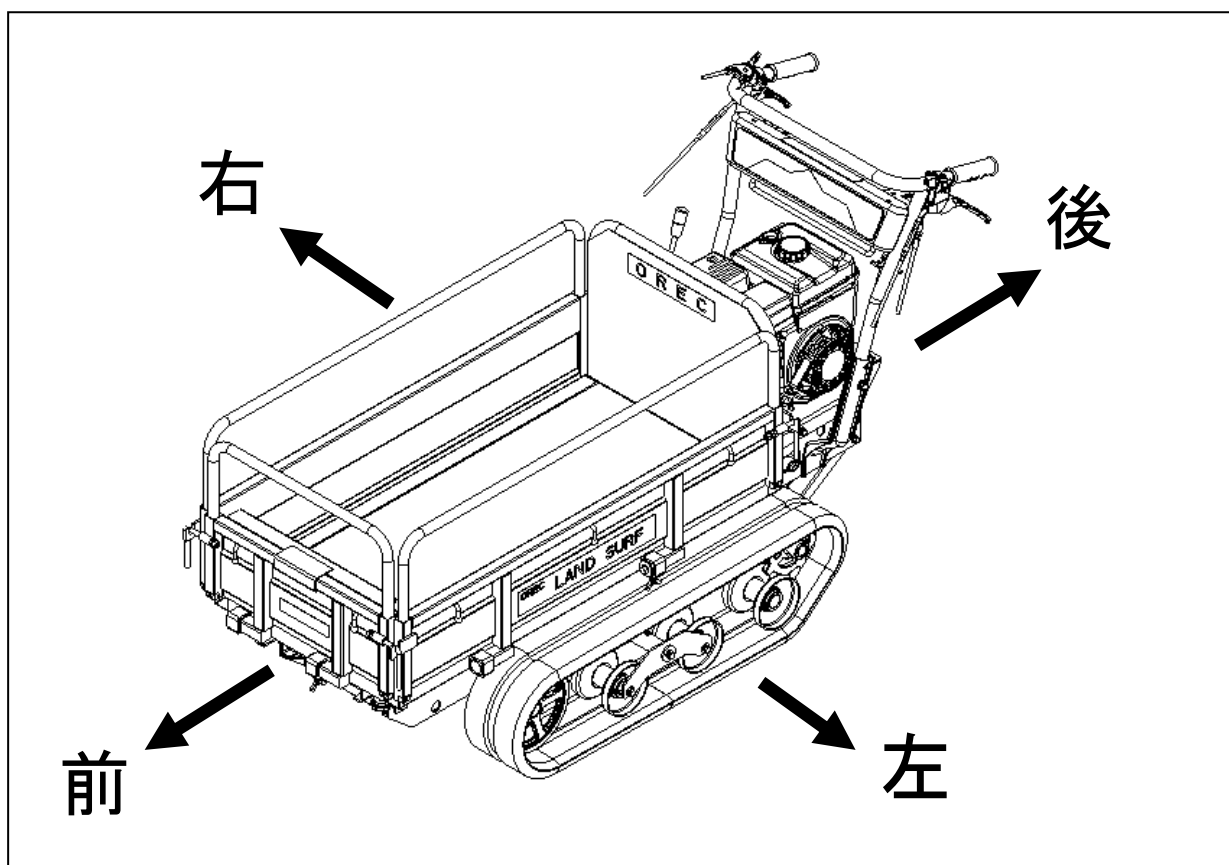
機械と一緒に「取扱説明書」も貸してあげて下さい。

親切心から機械を他人に貸して、借りた人が不慣れなために思わぬ事故を起こしたりするとせっかくの親切があだとなってしまいます。

《方向について…》

本機の前後左右は、下図のように作業員から見た方向で表します。

本文中の、「前進」・「後進」についても、作業員から見た方向で表します。

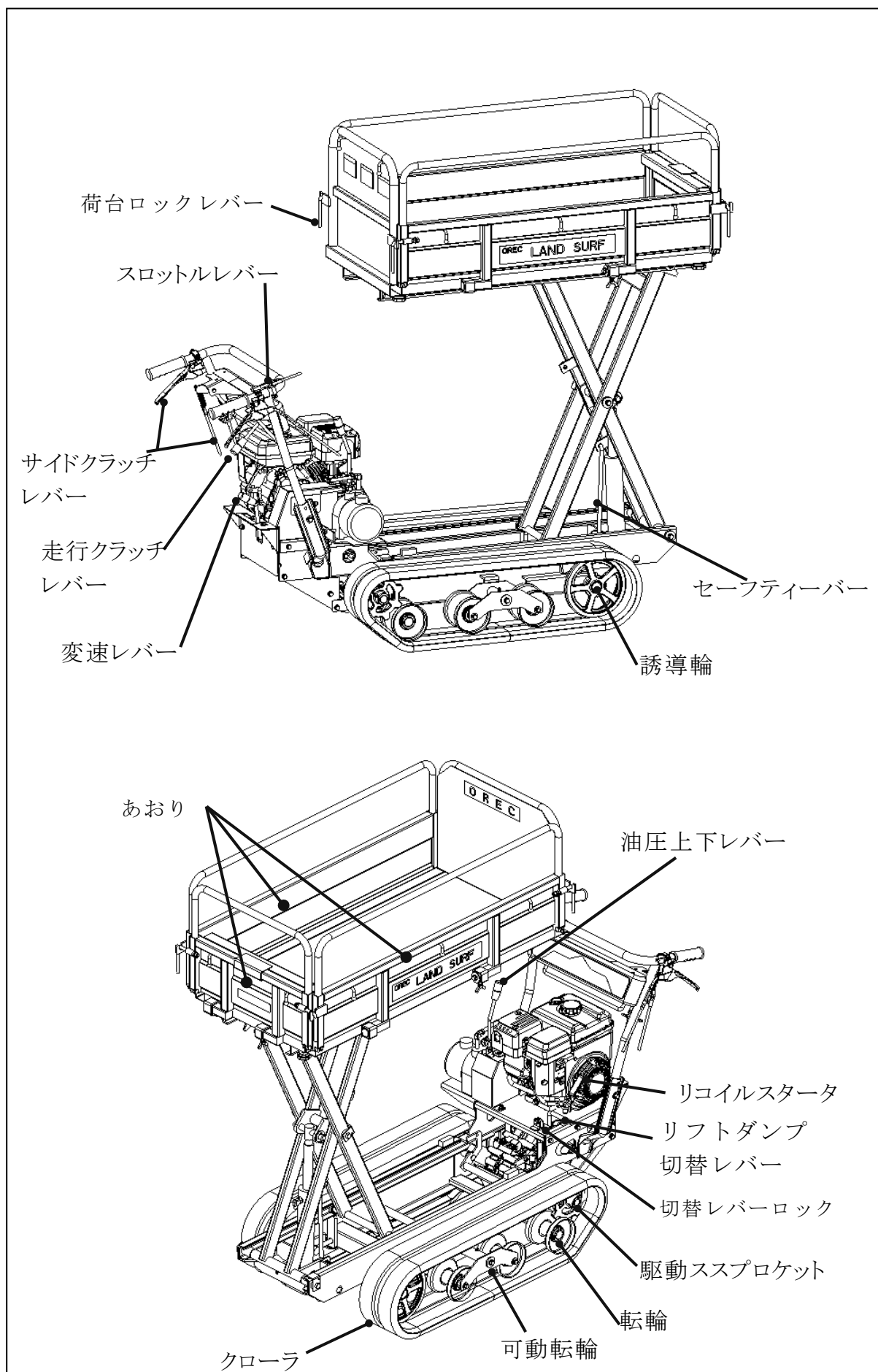


《仕 様》

型 式		L S 3 1 0 L D		
重 量 (Kg)		200		
最大積載能力 (Kg)		300		
本 機 寸 法	全 長 (mm)	1,810		
	全 幅 (mm)	680		
	全 高 (mm)	940(960:ハンドル延長時)		
	クローラ接地長さ (mm)	690		
	クローラ中心距離 (mm)	520		
	最低地上高 (mm)	86		
	最低荷台面地上高 (mm)	380		
荷 台	荷 台 内側寸法	長 さ (mm)	1,085	
		幅 (mm)	540(～840:側枠延長時)	
		高 さ (mm)	200	
	開閉方式		左右スライド、枠可倒式	
走 行 性 能	走 前 行 進	①速 (Km/h)	1.5	
		②速 (Km/h)	3.4	
	速 後 度 進	Ⓜ1速 (Km/h)	1.5	
		Ⓜ2速 (Km/h)	3.4	
	最小回転半径 (mm)		1,100	
	登坂能力 (度)		25° 〈空車時〉	
油量 「ミッション」		ギヤオイル 井90「1.6L」		
油量 「油圧」		ISO VG46「目盛 600 位置」		
ベルト「走行」「油圧」		LB31「走行」 LB22「油圧」		
駆 動 系 装 置	ク ラ ッ チ		ベルトテンション方式	
	変 速		ギヤスライド	
	操 向 装 置		サイドクラッチ&爪ロック式	
	駐車ブレーキ		内拡式ブレーキ	
	クローラ		160W×60P×35L	
昇 降	リフト、ダンプ 方式		油圧リフトダンプ	
	最大上昇 高さ&角度		1200mm & 60°	
エ ン ジ ン	名 称		三菱	
	型 式		GB130PN	
	潤 滑 油 量 (ℓ)		0.60	
	最大出力 kw/rpm (PS/rpm)		3/4,000(4.2/4,000)	
	始 動 方 式		リコイルスタータ	
	総 排 気 量 (CC)		126	
	点 火 プ ラ グ (NGK)		BP6HS	
	燃料タンク容量 (ℓ)		2.5	

※1 本仕様は改良のため予告なく変更することがあります。

《各部の名称》



《各部のはたらき》

① 走行クラッチレバー

エンジンからミッションへの動力を断続させます。レバーを引き上げると「走行」位置、押し下げると「停止」位置になります。

● 右手親指の操作でハンドルから手を離す事なく「停止」位置にすることもできます。

また、このレバーはブレーキ連動式となっており、レバーを押し下げると同時に駐車ブレーキも「入」の状態となります。後進時には、ハンドルと障害物との間に作業者が挟まれるのを防止する“緊急停止装置”として作動します。

参考：

緊急時には、グレーのレバーの中央部分を手で叩くようにして押し下げてください。

本機は停止し、駐車ブレーキがかかります。

② 変速レバー

走行速度の選択に使用します。

前進が「前進①」・「前進②」の2段、後進も「後進①」・「後進②」の2段です。

変速操作は走行クラッチレバーを「停止」位置にして、本機が停止した状態で行って下さい。

▲ 注意

走行クラッチレバーが「走行」位置のまま変速レバーの操作を行うと、危険なばかりでなくミッション内部のギヤが破損する恐れがあります。

※斜面での操作は危険ですので、絶対に行わないで下さい。

③ 油圧上下レバー

荷台をリフト（ダンプ）させるときに使用します。

レバーを前方に倒すとリフト（ダンプ）、手前に倒すと下降します。

④ サイドクラッチレバー

進行方向を変えるときに使用します。

本機はレバーを握った方向（右を握れば右側へ、左を握れば左側へ）に旋回します。

▲ 警告

サイドクラッチは、車速を十分に落として小刻みに操作して下さい。高速で操作すると急旋回となり、大変危険です。

⑤ スロットルレバー

エンジン回転数の増減を調整します。

⑥ リフトダンプ切替レバー

リフトとダンプを切替ます。レバーを前方にするとダンプ、手前にするとリフトです。

リフトの位置にしたら切替レバーロックで必ずロックして下さい。

《上手な運転と操作のしかた》

運転前の始業点検

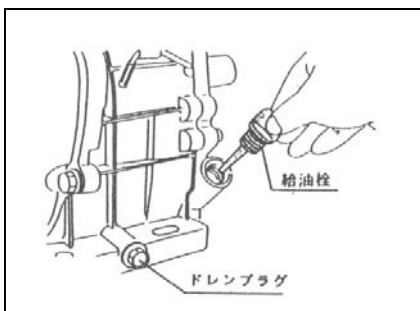
- 安全で快適な作業を行うために「定期点検一覧表」〈26 頁参照〉「定期自主点検表」〈27 頁参照〉に従って始業点検をおこない、異常箇所は直に整備をしてから作業を始めて下さい。
- 本機に必要なオイルは出荷時に注油されていますが、ご使用前に再度指定の個所に指定の良質なオイルが注油されているかご確認下さい。点検は平坦で広い場所で行って下さい。
- 定期的なオイルの交換は、本機を常に最良の状態で使用するためにもぜひ必要です。
- 運転及び各レバーの操作については、必ず本章の指示に従い、自己判断による見切り操作は絶対にしないで下さい。
 - 交換後の廃油は適切な処置をして下さい。
 - 本機に貼付された注意、危険マークもよく読んで理解して下さい。

エンジンオイルの点検・補給・交換

▲ 警告

- ①締め切った室内でエンジンを始動しないで下さい。有害な排気ガスで空気が汚染され、ガス中毒により死傷する恐れがあります。
- ②ガソリンエンジンを搭載していますので、くわえタバコや裸火照明はガソリンに引火して危険です。絶対に行わないで下さい。
- ③エンジンオイルの点検はエンジン停止後(約 5 分以上)、エンジンが冷えるのを待って火傷に十分注意して行って下さい。

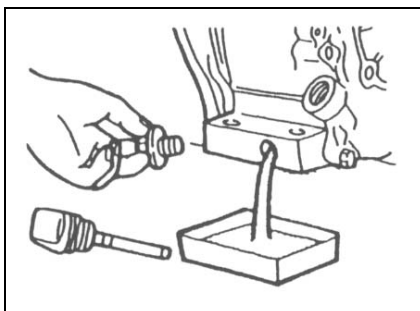
◎点検・補給…



- ①毎日、もしくは 8 時間毎にオイルレベルゲージで確認します。給油栓がレオイルベルゲージを兼用しています。
- ②エンジンオイルの量、及び汚れを目視で点検し、規定量でない場合、また汚れがひどい場合には、補給又は全量交換(下記参照)して下さい。

参考：エンジンは水平にして給油栓はねじ込まず差し込んで点検し、オイル注油後はしっかりと取り付けて下さい。

◎交換…



- ③オイルを受け取る適当な容器を用意して下さい。
- ④エンジン後部にあるオイルドレンプラグ(排油栓)を取り外し、クランクケース内のオイルを抜き取ります。

参考：同時に給油栓も取り外しておくこと、オイルが抜き取りやすくなります。

- ⑤ドレンプラグを確実に取り付けます。
- ⑥新しいエンジンオイルを規定量注油して下さい。

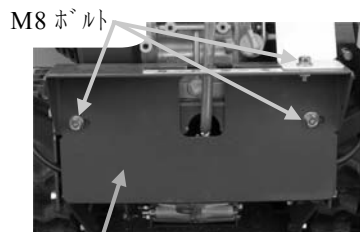
〈7 頁…仕様参照〉

参考：使用するエンジンオイルは SD 級以上の良質なオイルを使用し、気温によって下記のように使い分けて下さい。また交換の目安も下記の通りです。

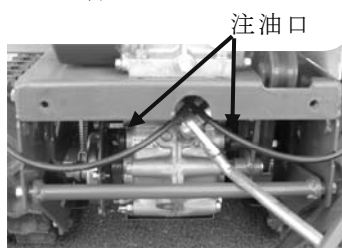
夏期(10℃以上)	SAE30, SAE10W-30, 又は SAE40	交換の目安
冬期(10℃以下)	SAE5W20 又は SAE10W-30	初回：5 時間目、2 回目以降：50 時間毎

※但し、高負荷又は高温下での連続長時間の使用では、短時間で交換して下さい。

ミッションオイルの点検・補給・交換



チェンジガイド



ドレンプラグ

◎点検・補給…

- ① M8 のボルトを 3 ヶ外し、チェンジガイドを外します。
- ② ミッションケース上部の注油栓を取り外して下さい。
(オイル栓は左右両面にあります。)
- ③ 注油口よりオイル量及び汚れを目視点検し、オイルが不足している場合及び汚れがひどい場合には、補給又は全量交換(下記参照)します。
- ④ 注油栓を左右両面ともに確実に取付けて下さい。
- ⑤ チェンジガイドを取付けて下さい。

◎交換…初回：50時間目、2回目以降：100時間毎

- ⑥ オイルを受ける適当な容器を用意します。
- ⑦ ミッションケース左側面下部のドレンプラグ(廃油栓)を取り外し、オイルを抜き取ります。

参考：同時に注油栓も取り外しておく、オイルが抜き取りやすくなります。

- ⑧ ドレンプラグを確実に取り付けた後、ミッションオイル(#90)を1.6ℓ注油して下さい。

油圧オイルの点検・補給・交換

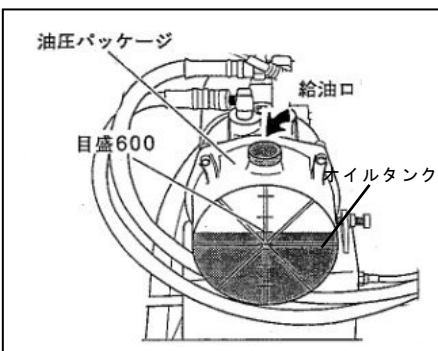
◎点検・補給…

油もれがないことを調べて下さい。荷台を最下位置にして油圧パッケージのオイルタンクの目盛 600 位置より少なければ補充をして下さい。

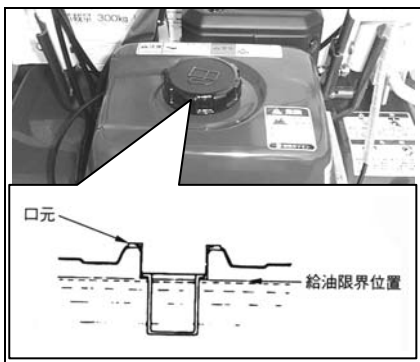
◎交換…初回：20時間目、2回目以降 50時間毎

ボルトを4ヶ外して油圧パッケージのオイルタンクを外し、汚れたオイルを排出します。

給油は給油口より油圧作動油 ISO VG46 相当を目盛 600 位置(700cc 程度)まで入れて下さい。



燃料の点検と補給



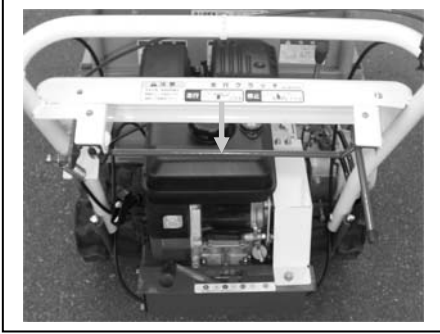
- ① 燃料を確認して下さい。

燃料計が少なくなったら早めに レギュラガソリンを補給して下さい。
(燃料タンク容量…7 頁仕様参照)

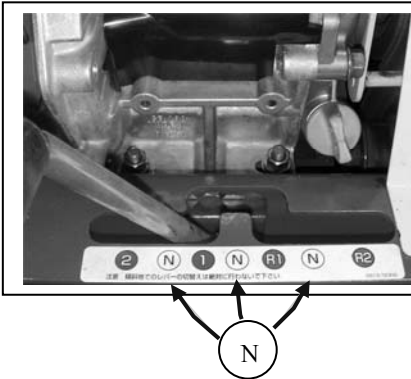
⚠ 危険

- ・燃料を入れるときには必ずエンジンを停止させてから行って下さい。
- ・エンジンとマフラが冷えているのを確認した後、注油口内の給油限界レベル線以下まで給油し、もし燃料がこぼれた場合にはきれいにふき取って下さい。火災の危険があります。

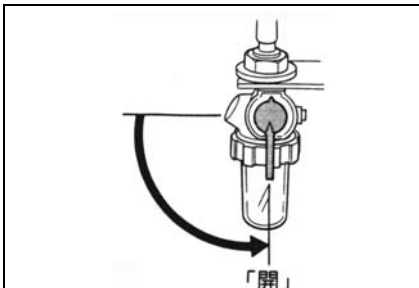
エンジン始動のしかた



- ① 走行クラッチレバーを「停止」位置にして下さい。
駐車ブレーキがかかります。



- ② 変速レバーを中立「N」ニュートラル位置にして下さい。

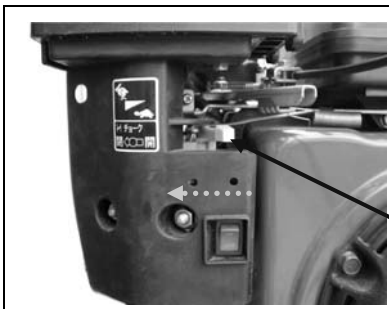



- ③ 燃料コックを「開 (ON)」位置にして下さい。



- ④ エンジンスイッチを「運転 (ON)」(上) 位置にして下さい。

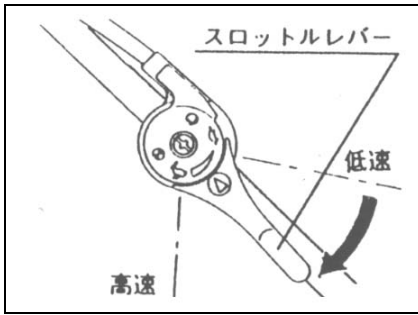
エンジンスイッチ



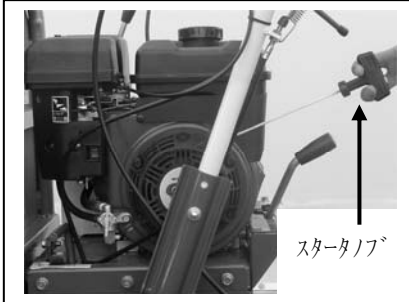
- ⑤ チョークレバーを操作して「全閉」||の位置にして下さい。

参考： エンジンが暖まっているときは、チョークレバーの操作は必要ありません。

チョークレバー

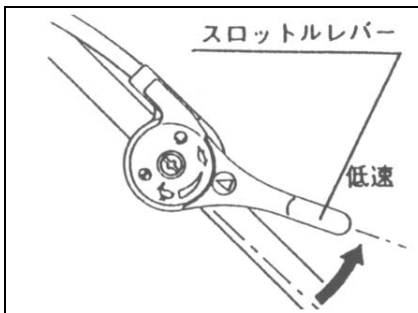



⑥ スロットルレバーを「」と「」の中間位置にして下さい。

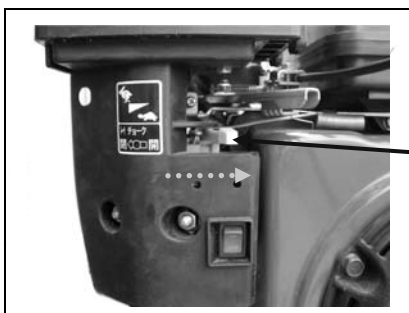



⑦ スタータノブを握り、ゆっくりと引いて圧縮を感じる位置から勢いよく引っ張って下さい。

エンジン始動後は、直ちにスタータノブを元の位置にゆっくりと戻して下さい。




⑧ エンジンが始動後、スロットルレバーを低速側「」位置にして下さい。




⑨ チョークレバーを一杯に押し込んで「全開」にし、しばらく（3～5分間）暖機運転をして下さい。

▲ 注意

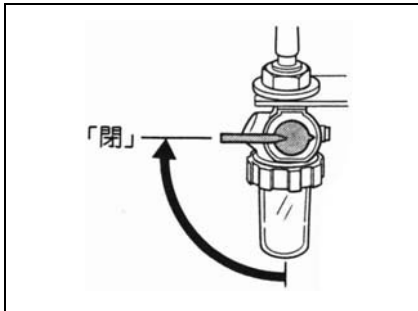
- 新品購入後、最初の一週間（約30～40時間）は、慣らし運転期間として、過負荷をかけるような控えめな運転を行って下さい。
- チョークレバーを「全閉」位置のままで使用すると、エンジンがスムーズに回転しないばかりでなく、エンジン各部に悪影響を与え、寿命を短くしますのでご注意下さい。
- エンジン始動後は負荷をかけずに約5分間は低速側で暖機運転をして下さい。
- 暖機運転を行うことにより、エンジンの各部にオイルをいきわたらせ、エンジンの寿命を延ばします。

エンジン停止のしかた



- ⑪ スロットルレバーを低速側「」位置にし、エンジンスイッチを「停止 (OFF)」位置 (下) にしてエンジンを停止して下さい。

エンジンスイッチ

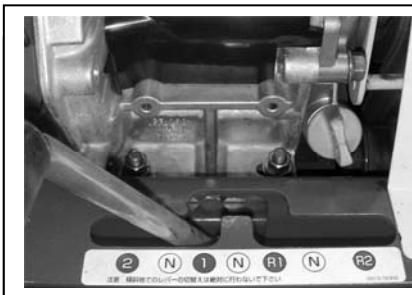


- ⑫ 最後に燃料コックを「閉 (OFF)」位置にして下さい。

走行・変速・停止のしかた

▲ 警告

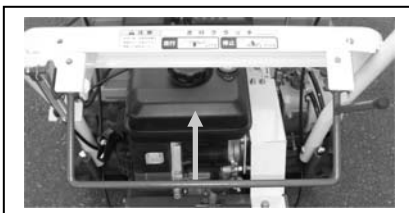
- ・ 変速 (ギヤチェンジ) が不十分な場合、ギヤ抜けの恐れがあり大変危険です。ギヤが入りにくいときには無理に入れず、走行クラッチレバーを「走行」位置方向へ少し動かした後、再度変速操作を行って下さい。
- ・ 走行しながらの変速操作は危険です。変速は必ず本機を停止した後に行ってください。
- ・ 斜面での変速操作は危険です。変速は平地にて行って下さい。



前進 ← ②N①NR①NR② → 後進

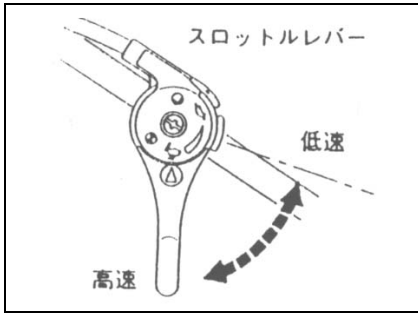
□ 走行のしかた



- ① エンジンを始動させて下さい。
(12 頁・エンジン始動のしかた参照)
- ② 本機の前後、左右の安全を確認して下さい。
- ③ 変速レバーを変速位置 [1、2、R1、R2] に確実に入れて下さい。
- ④ 走行クラッチレバーを「走行」位置にゆっくりと引き上げ、発進させて下さい。



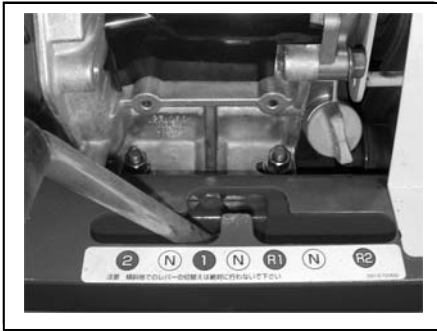
参考：

走行クラッチレバーを一気に引き上げると、積荷の状況によってはエンストする場合があります。



- ⑤ スロットルレバーを低速側「」から高速側「」へ徐々に動かし、走行速度を調整します。

□ 変速のしかた



- ⑥ 本機を停止させた後、上記の走行のしかた②～④迄の操作を繰り返して下さい。

〈14 頁・停止のしかた参照〉

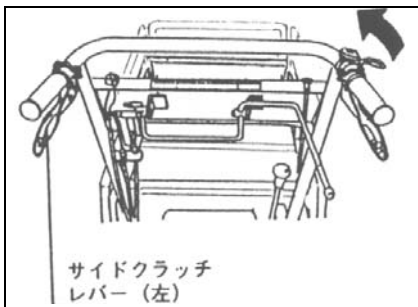
前進 ← ②N①NR①NR② → 後進

□ 旋回のしかた

⚠ 警告

左右両方のサイドクラッチレバーを同時に握ると急停車しますが非常に危険です。(バランスをくずし転倒したり、傾斜地では滑落する可能性があります)このような操作はしないで下さい。

- 左旋回する場合

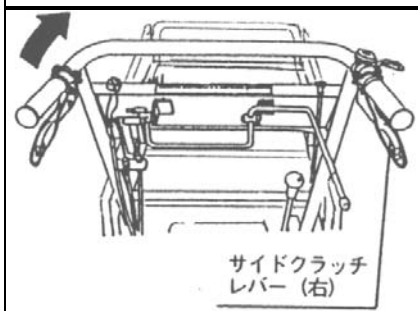


- ① 左側サイドクラッチレバーを握って下さい。

⚠ 注意

緊急の場合を除き、急旋回は避けて下さい。
サイドクラッチレバーを小刻みに操作しながら旋回して下さい。

- 右旋回する場合

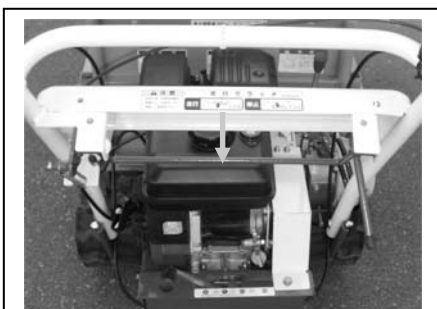


- ② 右側サイドクラッチレバーを握って下さい。

⚠ 注意

緊急の場合を除き、急旋回は避けて下さい。
サイドクラッチレバーを小刻みに操作しながら旋回して下さい。

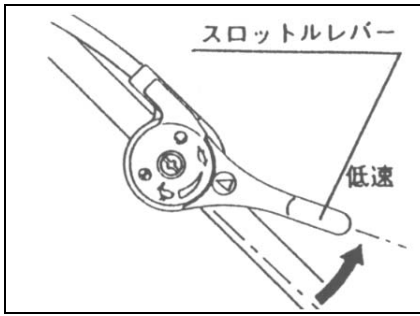
□ 停止のしかた



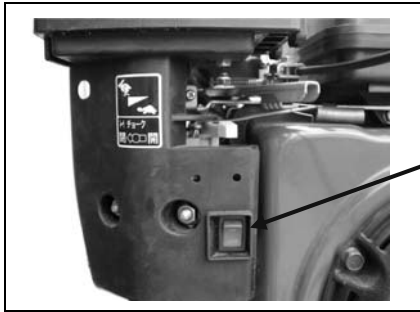
- ① 走行クラッチレバーを「停止」位置にして本機を停止させて下さい。駐車ブレーキがかかります。

⚠ 警告

積載時及び傾斜地においては本機が反動で浮き上がる可能性がありますので十分に注意して下さい。



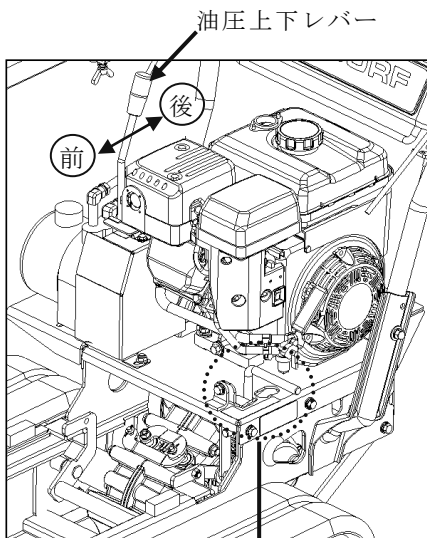
②スロットルレバーを低速側「」位置にして下さい。



③エンジンを停止させて下さい。
 〈14 頁・エンジン停止のしかた参照〉

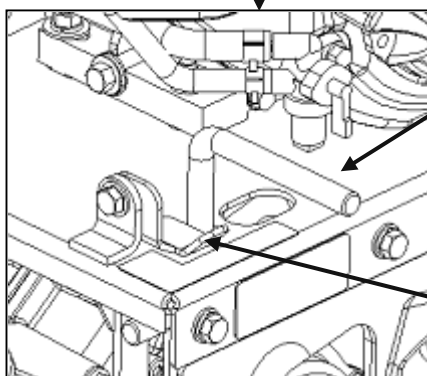
⚠ 警告
 本機から離れるときには、必ずエンジンを停止して下さい。

リフト操作のしかた



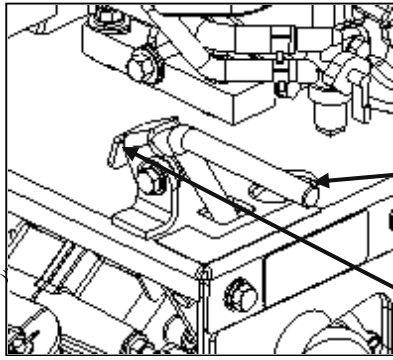
①リフトダンプ切替レバーがリフトの位置にあり、切替レバーロックで固定しているか確認します。
 (左下図の状態)

②油圧上下レバーを前方に倒すと上昇し、後方に倒すと下降します。



リフトダンプ
 切替レバー
 切替レバーロック

ダンプ操作のしかた



リフトダンプ
切替レバー

切替レバーロック

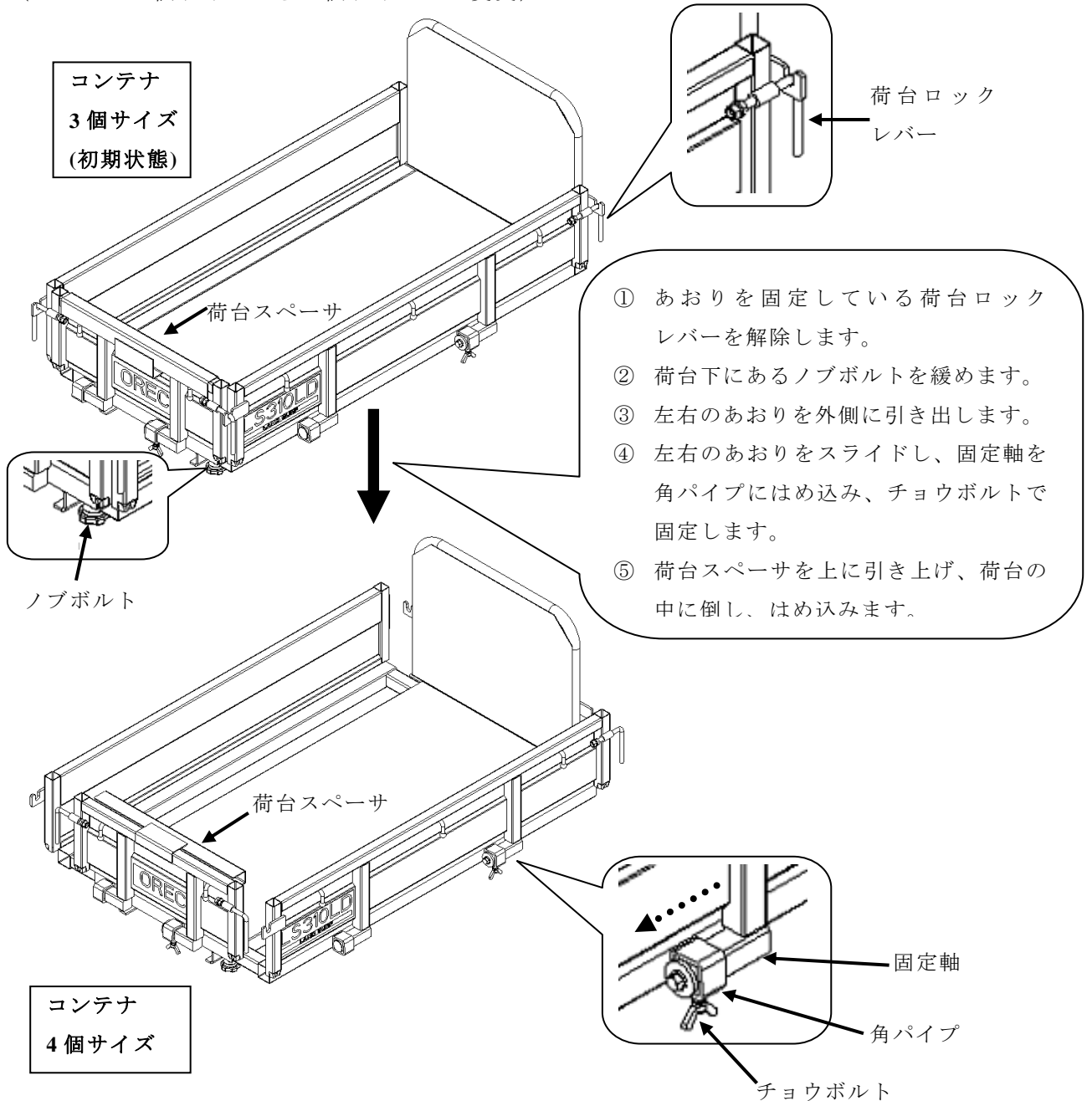
①切替レバーロックを開き、リフトダンプ切替レバーをダンプの位置(前方へ倒す)にします。

②前頁のリフトと同様に油圧上下レ

を前方に倒すと上昇し、後方に倒すと下降します。

荷台サイズ変更のしかた

(コンテナ 3 個サイズから 4 個サイズへの変更)



コンテナ
3 個サイズ
(初期状態)

荷台スペーサ

ノブボルト

荷台ロック
レバー

- ① あおりを固定している荷台ロックレバーを解除します。
- ② 荷台下にあるノブボルトを緩めます。
- ③ 左右のあおりを外側に引き出します。
- ④ 左右のあおりをスライドし、固定軸を角パイプにはめ込み、チョウボルトで固定します。
- ⑤ 荷台スペーサを上に取り上げ、荷台の中に倒し、はめ込みます。

コンテナ
4 個サイズ

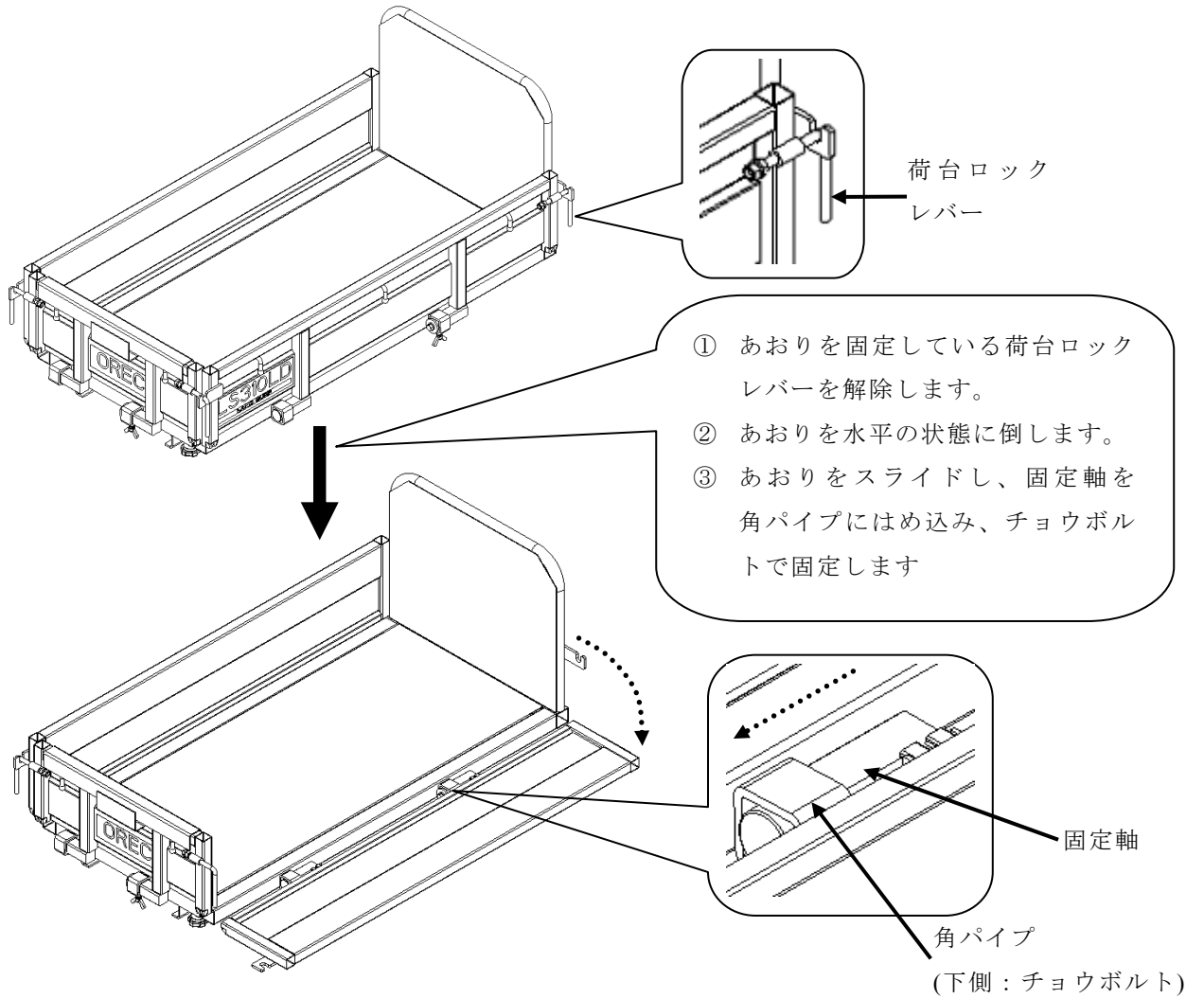
荷台スペーサ

固定軸

角パイプ

チョウボルト

あおりの開閉のしかた



ハンドル高さ変更のしかた




- ① 左右の袋ナットを外し、ハンドル取付ボルトを外します。
- ② ハンドルを上の方の穴位置まで引き上げます。
- ③ ①の手順の逆で取付けます。

⚠ 注意

高さ変更後はボルトを確実に締付けて下さい。
走行中にハンドルが外れて本機の破損・事故をまねくおそれがあります。

《トラックへの積み降ろしのしかた》

⚠ 警告

- ・積み降ろしは必ず空車の状態で行って下さい。
- ・運搬に使用する自動車は荷台に天井のないトラックを使用して下さい。
- ・トラックへの積み降ろしは、平坦で安定した場所を選んで下さい。思わぬ事故やケガをまねく恐れがあります。
- ・本機の直前は危険です。誘導者を本機の直前に立たせないようにして下さい。
- ・ブリッジのフックはトラックの荷台に段差のないよう又、外れないように確実に掛けて下さい。
- ・トラックへの積み降ろしの際、ブリッジ上での方向転換、変速、ダンプの操作はしないで下さい。
- ・本機がブリッジとトラックの荷台との境を越えるときには、急に重心の位置が変わりますので、十分に注意して下さい。転倒・転落による事故やケガをまねく恐れがあります。
- ・トラックに積んで移動するときは、走行クラッチレバーは「停止」位置にし、十分に強度のあるロープで確実に固定して荷台の上で動かないよう「車止め」を掛けて下さい。機械の転落や、本機の運転席への突っ込みによる重大な事故やケガをまねく恐れがあります。
- ・本機のクローラがブリッジの中央に位置するようにして作業を行って下さい。
- ・積み込む場合は前進「①」位置、降ろす場合は後進「Ⓜ」位置で行い、その他の位置には入れないで下さい。さらにスロットルレバーは「」位置にし、エンジンプレーキを十分に利かせながらゆっくりと行って下さい。

□ 積み降ろしのしかた



- ① 周囲に危険物のない、平坦な場所を選び、本機からは降りて操作して下さい。
- ② トラックは動き出さないようにエンジンを止め、サイドブレーキを引いて確実に駐車処置をして下さい。
- ③ 基準に合ったブリッジを使用して下さい。
- ④ 左右のクローラがブリッジの中央に位置するようにセットしてから積み降ろしを行って下さい。

参考；ブリッジ基準

ブリッジは、強度・幅・長さ・すべり止め・フックのあるものを使用して下さい。

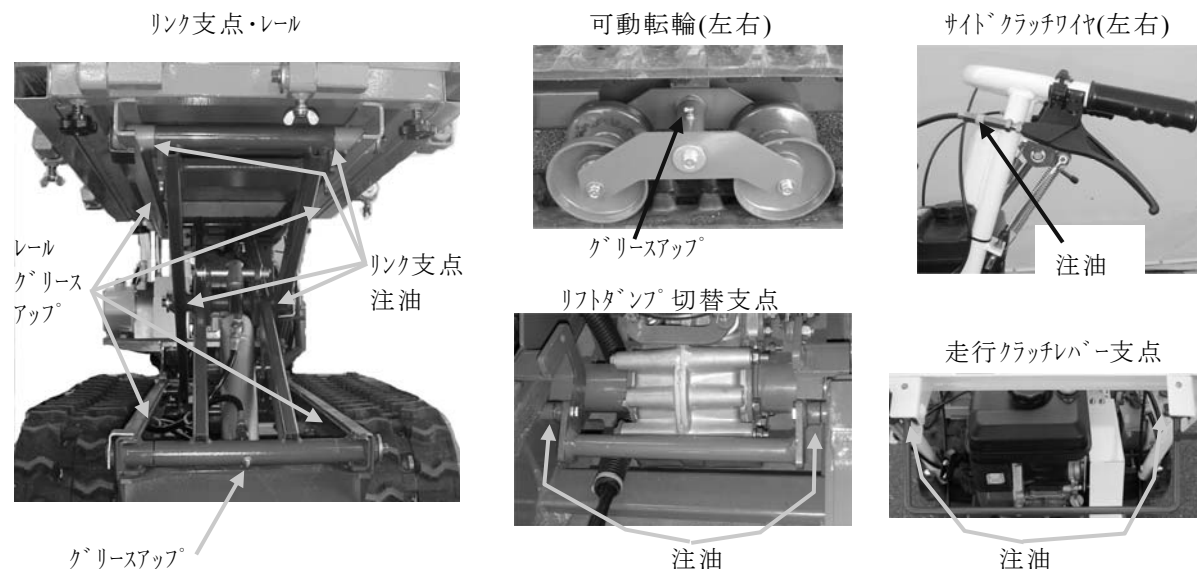
- ・長さ…トラック荷台までの高さの3.5倍以上あるもの。
- ・幅…本機のクローラ幅にあったもの。
- ・強度…本機重量および作業者の体重の総和に十分耐え得るもの。
- ・表面…スリップしないように表面処理が施されたもの。

《各部の点検・整備・調整のしかた》

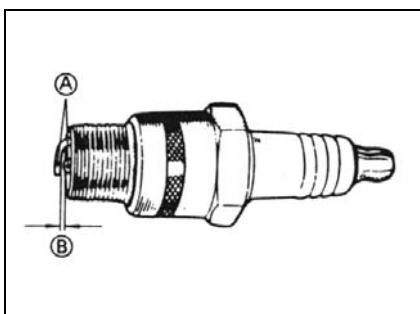
各部への注油・グリースアップのしかた

◎約30時間毎に注油・グリースアップを確実にして下さい。

注油を怠ると油切れによりサビ付や焼き付きの原因となり、操作が重くなり破損の原因となります。(記載されている以外も摩擦部や摺動部に注油・グリースアップをして下さい。)



点火プラグの点検・調整のしかた

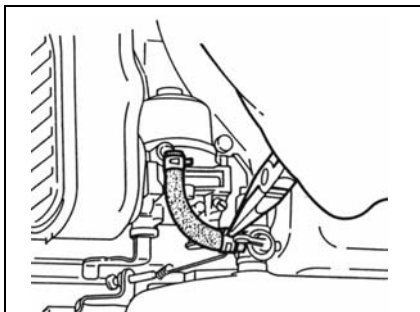


- ① プラグレンチで点火プラグをはずし、電極部①にカーボンが付着していたらワイヤブラシでこれを除去し、湿りがあればふき取して下さい。
- ② 中央陶器部にひび割れ、また電極部分に消耗が認められた場合には点火プラグを新品と交換して下さい。
- ③ 点火プラグの電極隙間②を0.7mm～0.8mmに調整して下さい。

参考：締め付け時は、最初手でねじ込んだ後プラグレンチを使用して下さい。

はじめからプラグレンチで絞め込むと、ねじ山を潰すことがありますので注意して下さい。(7頁・仕様参照)

燃料パイプの点検のしかた



⚠ 危険

くわえタバコや裸火照明での作業禁止

- ・燃料パイプ等のゴム製品は使わなくても劣化します。締め付けバンドとともに3年毎、又は傷んだ時には新品と交換して下さい。
- ・パイプ類や締め付けバンドが緩んだり、傷んだりしていないか常に注意して下さい。

参考：パイプの交換時に、パイプ内にホコリやチリが入らないように注意して下さい。

エアクリーナ清掃・点検のしかた

▲ 警告

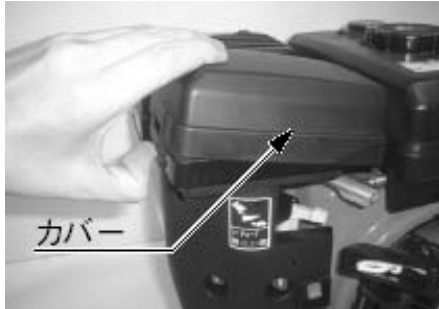
エアクリーナが目詰まりをすると、出力不足や燃料消費が多くなるばかりでなく、排ガス温度が上昇することにより、火災の原因ともなりますので、必ず定期的に清掃して下さい。

参考：

エアクリーナを取り外したままエンジンを運転しないで下さい。ゴミやホコリを吸い込み、エンジン不調やエンジン異常摩耗の原因となります。

■ 半湿式

メイキ GB130PN



- ① カバーを取外し、ホコリやゴミを気化器側へ入れないように注意深くエレメントを取り出して下さい。
- ② フォームエレメントは、白灯油（又は中性洗剤）で洗浄後よく絞り、乾燥させて下さい。その後、新しいエンジンオイル(SAE10W-30 相当)に浸し、固く絞って余分なオイルを振り落として下さい。
- ③ ケース内部の汚れをウエス等でふき取り、元のとおりに組み付けて下さい。

… エアクリーナの洗浄、交換時期について …

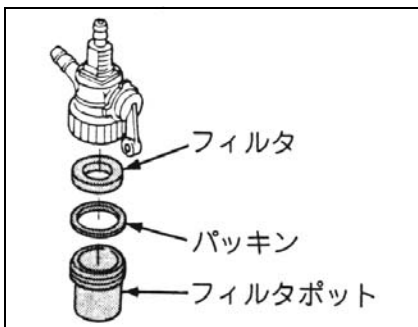
	洗浄	交換
フォームエレメント	… 25時間毎 …	… 100時間毎 …

- チリやホコリの多い作業環境での使用は頻繁に清掃するように心掛けて下さい。

燃料フィルタポット清掃のしかた

▲ 危険

くわえタバコや裸火照明での作業禁止



- ・ 50 時間使用ごとに燃料コック内部を清掃して下さい。
 - ・ 作業はホコリやチリのない清潔な場所で行って下さい。
- ① 燃料コックを「OFF (閉)」位置にして下さい。
 - ② 燃料フィルタポットを外し、底にたまっている沈殿物（ゴミや水等）及びフィルタを引火性の低い灯油等の溶剤で洗浄し、エアを使って乾燥させて下さい。
 - ③ 元の通りに確実に組み付けて下さい。

⚠ 警告

ガソリンやシンナ等の引火性の高い洗浄油は危険ですから使用しないで下さい。

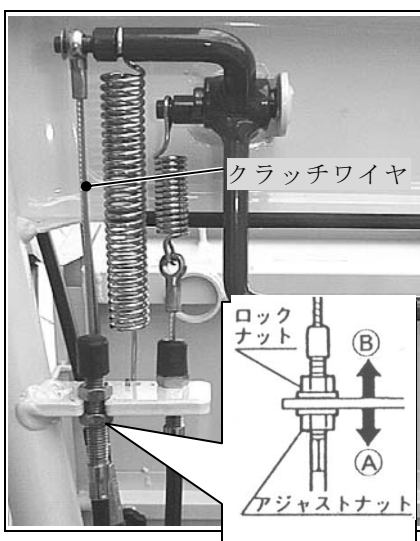
そのほかの点検

- ①各操作レバーが正しく作動するか確かめて下さい。(毎回始業時)
- ②Vベルトは初期伸びが多少ありますので、2～3時間運転後張り直して下さい。
(20頁…走行クラッチワイヤ調整参照)
- ③本機を少し動かして異常音、異常発熱の有無を調べて下さい。
- ④各部を十分に馴染ませる為、最初の2～3時間は無理な作業はさけて下さい。
- ⑤作業後の手入れ、及び定期的な点検も忘れずに行ってください。
(25頁…定期自主点検表参照)
- ⑥各部のボルト・ナット類に緩み、脱落がないか確認して下さい。
- ⑦本機全体を見回し、各部にオイルの漏れがないか点検して下さい。
 - ・もしオイル漏れが確認できた場合には、お買い上げの販売店へご相談下さい。
 - ・オイル漏れの状態で使い続けると危険なばかりか、本機の破損にもつながります。

各部ワイヤ・ベルト・クローラ調整のしかた

⚠ 注意

各ワイヤ・ベルトを調整する前には必ず本機を平坦な広い場所に置いてエンジンを停止し、点火プラグキャップを外した後十分安全を確認して行って下さい。

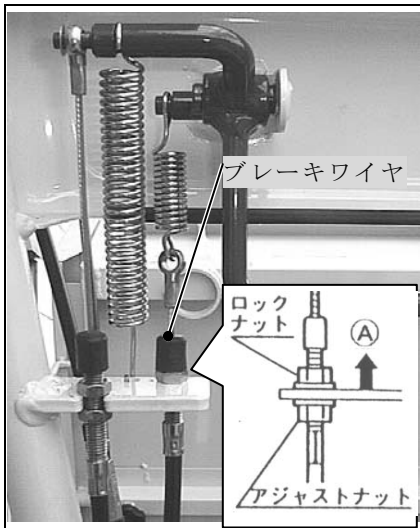


□ 走行クラッチワイヤ

- ① 走行クラッチレバーを「停止(下側)」位置にして、走行クラッチワイヤをフリーの状態にして下さい。
- ② 走行クラッチワイヤのロックナットを緩めて下さい。
- ③ アジャストナットを回し、走行クラッチワイヤの張りを調整して下さい。
 - ・ 走行クラッチを入れても負荷がかかるとVベルトがスリップする場合。
…アジャストナットをⒷの方向へ…
 - ・ 走行クラッチの切れが悪い場合。
…アジャストナットをⒶの方向へ…
- ④ 調整後は、ロックナットを確実に締め付けて下さい。

⚠ 警告

ブレーキの利きが甘いと本機の暴走等、非常に危険です。逆にブレーキを引きずると本機故障の原因となりますので、ブレーキの利き方に異常を感じたときには即座に下記の調整を行い、常に安全を心掛けるようにして下さい。



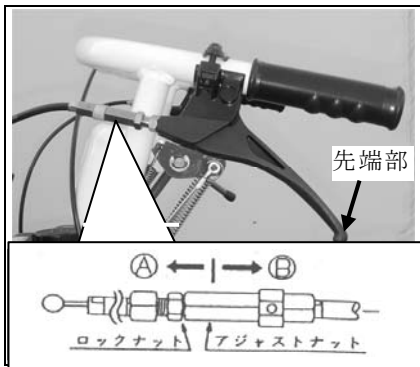
□ブレーキワイヤ

- ① 走行クラッチレバーを「走行(上側)」位置にして、ブレーキワイヤをフリーの状態にして下さい。
- ② ブレーキワイヤのロックナットを緩めます。
- ③ アジャストナットを回し、ブレーキワイヤの張りを調整して下さい。
 - ・ブレーキの利きが甘い場合。
 - …アジャストナットを④方向へ回転させ、走行クラッチレバーが「停止(下側)」でブレーキワイヤ付け根のバネが5～6mm程度伸びるように調整して下さい。
 - ・ブレーキを引きずる場合。
 - …上記と逆の調整をします。
- ④ 調整後は、ロックナットを確実に締め付けて下さい。

□サイドクラッチワイヤ

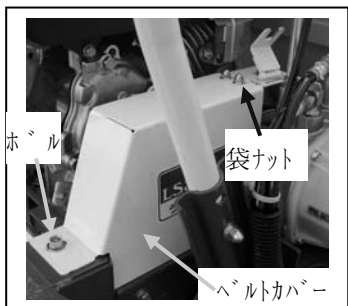
参考：

サイドクラッチレバーの遊びが多くなり利きが甘くなった場合、又は旋回がスムーズに行えない場合には、サイドクラッチワイヤの中間アジャスタで調整して下さい。



- ① サイドクラッチワイヤ中間アジャスタのロックナットを緩めます。
- ② アジャストナットを回し、サイドクラッチワイヤの張りを調整して下さい。
 - ・サイドクラッチレバーの戻りが悪い場合。
 - …アジャストナットを④の方向へ…
 - ・サイドクラッチの切れが悪い場合。
 - …アジャストナットを⑤の方向へ…
- ③ 調整後は、ロックナットを確実に締め付けて下さい。

■ サイドクラッチレバー先端部での遊びが2～5mm程度になるように調整して下さい。

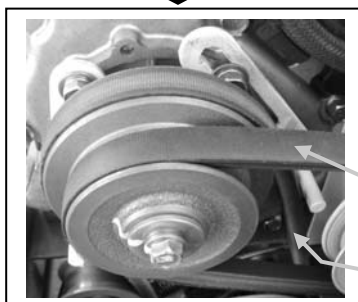


□走行Vベルト点検

- ① ベルトカバーを外します。
(袋ナット2ヶ、ボルト1ヶ)
- ② 走行Vベルトに損傷がないか目視点検し、損傷が確認された場合には交換して下さい。
(24頁…ベルト押え調整のしかた参照)
- ③ ベルトカバーを取付ます。

参考：走行Vベルトは消耗します。常時点検し、異常があれば新品と交換して下さい。調整時期は以下の通りです。

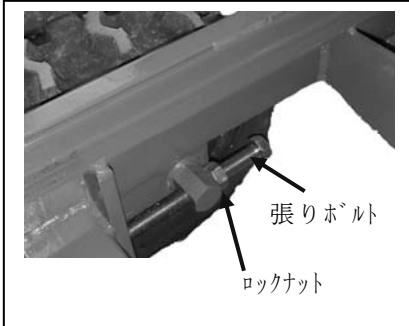
調整時期…初回：2～3時間目 2回目以降：50時間運転毎



□クローラ張り調整

▲注意

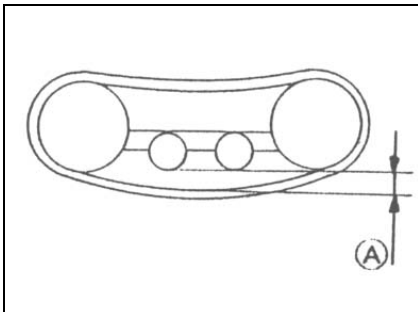
クローラは新品時には初期伸びが、使用時間の経過とともに、スプロケットとのなじみによる緩みが生じてきます。
クローラの張りが正しく調整されていないと脱輪したり、クローラの寿命を著しく縮めますので以下の要領に従って、クローラの張りを調整して下さい。



- ①ダンプの状態にします。<17 頁ダンプ操作のしかた>
- ②ジャッキアップ等で本機を地面と平行に浮かして下さい。

▲警告

ジャッキ等が作業中に外れると非常に危険です。
しっかりと固定して下さい。

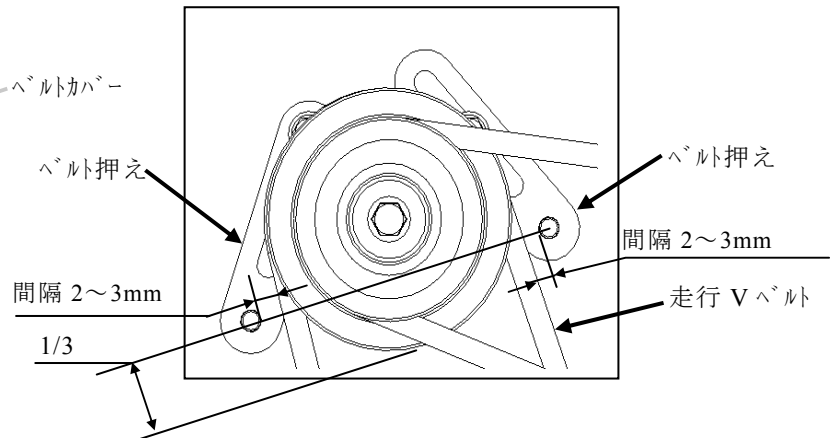


- ③車体後部のクローラ張りボルトのロックナットを緩めて下さい。
- ④クローラ張りボルトを回して、クローラと転輪との隙間①が 15~20mm 程度になるよう調整して下さい。
- ⑤左右のクローラの張りが均等になるよう調整下さい。
- ⑥調整後、ロックナットを確実に締め付けて下さい。
- ⑦本機を降ろして下さい。

□ベルト押え調整

参考：

走行クラッチの切れが悪い原因として、ワイヤの調整不良の外にベルト押えの調整不良があります。Vベルトの交換等によりベルト押えを取り外した場合には、以下を参考にベルト押えの調整を行って下さい。



- ①ベルトカバーを外します。
- ②走行クラッチレバーを「走行(上側)」位置にして、走行Vベルトとベルト押えとの間隔が 2~3mm 程度になるようにベルト押えの位置を調整して下さい。
- ③ベルトカバーを取付ます。

参考：

ベルト押えはエンジンプーリの約 1/3 程度に位置させ、走行クラッチレバーが「停止(下側)」位置のときに、ベルトを軽く押え、ベルトがエンジンプーリの溝より軽く浮き上がる様にセットします。

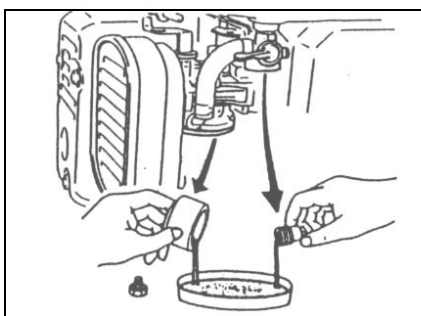
《長期保管のしかた》

▲ 危険

★エンジンを停止して下さい。

〈14 頁…エンジン停止のしかた参照〉

- ・燃料を抜く時は風通しの良い場所で作業し、機械のそばでのくわえたばこや裸火照明、焚き火等は引火の危険がありますので、絶対にしないで下さい。
- ・また、抜いた燃料の取扱いには十分に注意して下さい。
- ・本機は、固い平坦な場所で本機を水平にして保管して下さい。
- ・燃料タンク内のガソリンを抜く時、本機にカバーをかける時にはエンジンとマフラが冷えているのを確認してからにして下さい。



①本機を30日以上使用しないときは、燃料変質による始動不良、又は運転不調にならないように燃料タンク及び気化器内の燃料を抜き取って下さい。

- ・燃料タンクの燃料は、燃料フィルタポットを外し、受皿等を当ててから燃料コックを「ON（開）」位置にして抜いて下さい。
- ・気化器内の燃料は下部のフロート室締め付けボルトを外して燃料を抜いて下さい。

②車体やクローラに付着した泥や異物をきれいに除去して下さい。

…水洗いをする場合、エンジンの電装関係や気化器、エアクリーナ、マフラ排気口に水がかからないようにカバーをかける等して注意して下さい。エンジン始動不良の原因になります。

…

③エンジン及び本機の外面をオイルを浸した布で清掃して下さい。

④エンジンオイルを交換して下さい。

〈10 頁…エンジンオイル交換参照〉

⑤各部の清掃を十分に行って下さい。特にリコイルスタータ・エアクリーナ・マフラ・気化器付近やベルトカバー内に堆積した泥やホコリをエア吹き等できれいに除去し、サビが出ている箇所はサビを取り除いて防錆塗料を塗布して下さい。

… 泥やホコリが堆積したまま作業を続けると …

草屑等による目詰まりでエンジンが過熱し、焼き付や、火災の原因にもなりかねません。

⑥各給脂・注油箇所それぞれ注油をして、不具合箇所は修理して下さい。

⑦走行クラッチレバーは「停止（下側）」位置にして下さい。

⑧屋根のある風通しの良い固く乾燥した地面の上に本機を水平にして保管して下さい。

⑨本機にカバー等をかけてほこりがつかないようにして下さい。

… 通常時の使用後のお手入れは上記②・⑤～⑨を励行して下さい。 …

寒冷地での注意

- ・冬季は、使用後必ず本機に付着した泥や異物を取り除いて、コンクリートか固い乾燥した路面、又は角材の上に駐車して下さい。付着物が凍結して故障の原因となります。
- ・又、凍結して運転不可能になった場合には無理に動かそうとせずに、凍結箇所をお湯で溶かすか、凍結が溶けるまで待って下さい。
(無理に動かした場合の故障については責任を負いかねますので特にご注意下さい。)

《定期点検一覧表》

★点検や整備を怠ると事故や故障の原因となる事があります。正常な機能を発揮させ、いつも安全な状態であるようにこの「定期点検一覧表」を参考に点検を行って下さい。

点検調整箇所	規定量	内容	点検・交換時期	参照頁
エンジンオイル	0.6 L	エンジンオイル SE 級以上 ●夏期(10℃以上) SAE30、SAE10W-30 又は SAE40 ●冬期(10℃以下) SAE5W20 又は SAE10W-30	初回：5 時間 2 回目以降： 50 時間毎	1 0
*ミッションオイル	1.6 L	ギヤーオイル#90	初回：50 時間 2 回目以降： 100 時間毎	1 1
*油圧オイル	目盛 600 位置 (700cc 程度)	油圧作動油 ISO VG 46	初回：20 時間 2 回目以降： 50 時間毎	1 1
注油・グリースアップ		各部への 注油・グリースアップ	30 時間毎	2 0
点火プラグ		清掃	200 時間毎	2 0
燃料パイプ		交換、結合部の点検	3 年毎に交換	2 0
エアクリーナ		白灯油で洗浄または交換	洗浄：25 時間毎 交換：100 時間毎	2 1
燃料フィルタポット		清掃	清掃：50 時間毎	2 1
走行クラッチワイヤ		スリップしていないか確認	作業開始前に 毎日点検	2 2
ブレーキワイヤ		ブレーキの効きの確認		2 3
サイドクラッチワイヤ		旋回できるか確認		2 3
走行Vベルト		磨耗、損傷の確認	初回：2～3 時間 2 回目以降： 50 時間毎	2 3
クローラ		たわみ量の調節	都度	2 4

※※印は販売店にご相談下さい。但し、有料となります。

《定期自主点検表》

★点検や整備を怠ると事故や故障の原因となる事があります。正常な機能を発揮させ、いつも安全な状態であるようにこの「定期自主点検表」を参考に点検を行って下さい。

★年次点検は1年に1回,月次点検は1ヶ月に1回,始業点検は作業開始前に毎日点検を行って下さい。

項目		点 検 内 容	点検実施時期			
			始業	月次	年次	
原 動 機	本 体	①かかり具合、異音	始動の際、容易に起動するか	○	○	○
		②回転数と加速の状態	回転速度を徐々に上げ、正常に滑らかに回転するか	○	○	○
		③排気の状態及びガス漏れ	排気色、排気臭及び排気音は正常か。	○	○	○
		④エアクリーナの損傷、弛み、汚れ	損傷なく、取付部に弛み、著しい汚れはないか		○	○
		⑤シリンダヘッドと各マニホールド締付部の弛み	ガス漏れ、亀裂、著しい腐食はないか			○
		*⑥弁すきま	(正規の隙間であるか)			○
		*⑦圧縮圧力	(正規の圧縮圧力であるか)			○
		⑧エンジンベースの亀裂、変形、ボルト・ナットの弛み	エンジンベースに亀裂、変形又はボルト・ナットに弛みはないか	○	○	○
	潤滑装置	①油量、汚れ	オイル量は適切か、オイルに汚れ、水・金属等の混入はないか	○	○	○
		②油漏れ	オイルシール、ガスケット部に油漏れはないか	○	○	○
	燃料装置	①燃料漏れ	燃料の漏れはないか	○	○	○
		②燃料フィルタの詰まり	著しい汚れ、変形、目詰まりはないか		○	○
		③燃料の量及び質	燃料は入っているか、又質は良いか	○	○	○
	電気装置	①電気配線の接続部の弛み、損傷	ハーネス接続は適切か、又弛み、損傷はないか		○	○
		清浄装置	①エアクリーナエレメントの汚れ	エアクリーナエレメントに汚れはないか	○	○
			②エレメントの破損	エレメントに破れ、スリ切れはないか	○	○
	冷却系統	①リコイルカバーへの草屑等の目詰まり	リコイルカバーが草屑等で目詰まりしていないか	○	○	○
		②マフラーへの草屑等の堆積	マフラー周辺に草屑が堆積していないか	○	○	○
伝達装置	ベルト	①弛み、損傷、汚れ	ベルトの張り具合は適切か、亀裂、損傷、著しい汚れはないか	○	○	○
		②異音、異常発熱及び作動	作動に異常はないか、又、異音、異常発熱はないか		○	○
	ミッション	①油量、汚れ	オイルの量は適切か、又、著しい汚れはないか			○
		③油漏れ	オイルシール、パッキン部に油漏れはないか	○	○	○
制動装置	ブレーキ	①駐車ブレーキの利き具合、遊び	ブレーキの利きは甘くないか、又引かずりはないか、遊びは適切か		○	○
		③ワイヤの損傷、弛み、ガタ、割ピンの欠落	著しい損傷及び弛み、ガタ、脱落はないか	○	○	○
車体	車 体	①亀裂、変形及び取付ボルト・ナットの弛み、脱落	フレームの亀裂、変形、ボルト・ナットの緩み、脱落はないか		○	○
	カバー	②亀裂、変形、腐食	亀裂、変形、腐食はないか			○
	可動部	①各レバー&ワイヤ等の作動状態	作動はスムーズか、油切れを起こしていないか		○	○
油圧	パッケージ	①油量、油漏れ、損傷	油量は適切か、油漏れ、損傷はないか	○	○	○
	シリンダ	①油漏れ、損傷	油漏れ、損傷はないか	○	○	○
	ホース、金具	①亀裂、油漏れ、金具の緩み	亀裂、油漏れ、金具の緩みはないか	○	○	○
変速	変速レバー	①操作具合	作動に異常はないか	○	○	○
		②弛み、ガタ	レバー取付位置に	○	○	○
走行装置	クローラ	①クローラの張り	基準値内であること	○	○	○
		②亀裂、損傷及び偏摩耗	亀裂、損傷及び偏摩耗はないか	○	○	○
		③金属片、石その他の異物の噛み込み	異物の噛み込みはないか	○	○	○
		④ボルト・ナットの弛み、脱落	ボルト・ナットの緩み、脱落はないか	○	○	○
安全	表示マーク	①損傷	警告ラベル及び銘板が損傷なく取付けられているか		○	○

※※印は販売店にご相談下さい。但し、有料となります。

《不調診断》

- 機械の調子が悪いときは、必ずエンジンを停止させ、走行クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置にしてから診断してください。回転物にはさまれたり、障害事故の原因になります。

現象	確認事項	処置
エンジンがかからない	燃料が切れていませんか。	燃料の補給をしてください。
	エンジンの始動手順が間違っていないですか。	正しい手順でエンジンをかけてください。
	燃料に水が入っていませんか。	燃料フィルタポットに水が溜まっていれば、燃料こし器を外して水抜きをしてください。
	点火プラグが悪くなっていませんか。	点火プラグを外し、乾いた布などでよく乾燥させてください。 点火プラグの電極部を清掃し、それでもかからない場合は、販売店に相談してください。
エンジンの力がない。	エアクリーナにゴミがつまっていますか。	エレメントを取外し、白灯油で洗い、オイルに浸し硬くしぼって取付けてください。
	エンジンオイルが少なくありませんか。	エンジンオイルを補給してください。また、オイルが古くなっている場合は、新しいオイルと入れ替えてください。
	積荷が重すぎませんか。	坂道では特に積荷を軽くしてください。
	ベルトがスリップしていませんか。	必ず、販売店で調節を受けてください。
	エンジンの回転はあがりますか。	アクセルレバー取付位置が動いていたら、元の位置に確実に固定してください。
	エンジンの圧縮がないではありませんか。	ピストンリングなどの磨耗も考えられますので、販売店に相談してください。
走行しない	走行クラッチワイヤ調節は適正ですか。	走行クラッチワイヤを調節してください。
	ベルトの張りは適正ですか。	必ず、販売店で調節を受けてください。
荷台が上昇しない	積荷が重すぎませんか。	300kg以下にしてください。
	油圧部品から油漏れがありませんか。	必ず、販売店で調節を受けてください。
	油圧上下レバー周りに異物が挟まっていますか。	異物を取り除いてください。
各部に振動が多い	エンジンが振れるではありませんか。	エンジン取付ボルトを強く締直してください。
	ハンドルが振れるではありませんか。	ハンドル取付ボルトを締直してください。

※わからない場合は、お買い上げいただきました販売店にご相談下さい。

《工具袋明細》

No.	部 品 名	規 格・寸 法	個 数	備 考
①	取扱説明書		1	
②	品質保証書		1	
③	エンジン工具	エンジン付属品	1	
④	両口スパナ	10×12	1	
⑤	〃	14×17	1	
⑥	〃	19×22	1	

《消耗品明細》

No.	部 品 名	部 品 番 号	個数/台	備 考
①	VベルトLB22	89-6123-002200	1	LB22
②	VベルトLB31	89-6123-003100	1	LB31
③	サイドクラッチワイヤ	0913-71200	2	
④	ブレーキワイヤ	0913-71300	1	
⑤	走行クラッチワイヤ	0913-71400	1	
⑥	スロットルワイヤ	0030-70600	1	
⑦	ゴムクローラ	80-1920-401-00	2	160W×60P×35L
⑧	走行クラッチマーク	80-1923-914-00	1	
⑨	警告ラベル④	0253-72500	1	
⑩	危険マーク6種	0913-73400	1	
⑪	LD注意マーク	0913-73100	1	
⑫	ブレーキフタ Assy(ブレーキシュー)	0207-73100	1	